

たしろねんぶつけんばい
田代念佛剣舞

- ◇ 指定日 令和2年11月13日
- ◇ 所在地 区界
- ◇ 保持団体 田代念佛剣舞保存会

文化年間(1804-1817年)に田代村の去石仙仁門ななきたが、仙台七北田の酒屋に出稼ぎに行っていた最中に習い覚えて、巻物を授与されたと伝えられています。

この剣舞は、明治22年(1889年)に岡村（現：宮古市箱石）に伝授され、さらに大正時代に岡村から江繫えつなぎ おおばたけの大畑（現：宮古市江繫）に伝授されました。昭和初期まで平津戸ひらつとでも同じ剣舞が踊られ、川井地域の閉伊川沿いに伝わった剣舞といえます。

毎年、盆の15日に地域の亡くなった方を供養し、夜に剣舞を披露しています。午後に田代念佛剣舞供養塔（昭和51年(1976年)建立）と「南無阿弥陀仏」碑（嘉永6年(1853年)建立）の前で御墓踊みはかをします。剣舞の創始者の墓で墓踊をした後、地域の初盆の家や墓所を廻って御墓踊と剣舞で供養をします。剣舞は基本的に出端・中踊・引端ひきはで構成され、3段で一庭となっています。演目によって、扇、太刀、長刀を持ちかえ、7演目を伝承しています。

